

の試験に数名が挑んでいます。また仏検も各自の目標に応じて多くの学生がチャレンジしています。せっかく習い始めた英語以外の新しい外国語です。仏検や DELF 合格を目標にして一緒に頑張りませんか？

仏検を受験して

文学部 2年 杉田 竣祐

私は昨年の秋に仏検を受験しました。私が仏検三級合格に至った勉強法などを書いていきたいと思っています。

仏検の勉強には大学の教科書の他に、文法の参考書一冊と単語集を一冊使いました。参考書は駿河台出版社の新・リュミエールを使いました。文法事項と例文、練習問題が載っていて、これを一通り憶えれば三級で出る文法は殆ど分かるようになると思います。一年次に仏検三級を受験する場合は、大学の授業でまだやっていない所も自分で勉強しなければいけないので、参考書があると便利だと思います。授業より先に勉強して、ある程度理解してから授業を受けると理解もより深まるのでお勧めします。

単語集は、仏検の級ごとの単語がまとめられているものを使いました。試験に出たのは日常的に使う簡単な単語が多かったので、基本的な単語を正確に憶えることが高得点に繋がると思います。

参考書や単語集で憶えるだけでなく、実際に憶えたことを使ってみると良いと思います。例えば、身の回りの物をフランス語に訳してみたり、時計を見たときフランス語で時間を言ってみたりすると良い練習になると思います。外国人の先生と話をしたり、友達と会話の練習をするのもとても効果的だと思います。また、試験

にはリスニング問題もあるので練習しておくの良いです。インターネットにリスニング教材を公開しているサイトもあるので利用すると良いと思います。

語学検定は、自分の語学の能力を知ることができますし、学習のモチベーションも上がると思うので積極的に受験することをお勧めします。



中検4級、3級への挑戦 発音問題をクリアしよう

国際コミュニケーション学部

塩山 正純

外国語の学習で、資格はゴールではなく、あくまでチカラ試しですが、例えば中検合格を目指して必死に勉強するうちに結果として中国語のチカラが身に付くこともあります。ですから、検定に一所懸命になるのも悪いことではありません。今回は中検の得点アップのカナメでありながら、多くの学習者が苦手意識をもっている筆記試験の発音問題について考えてみましょう。

愛大で第二外国語の中国語は、1年生で週2時間、学部によっては2年生でも週1、2時間の授業があります。中検は「日本人が外国語として中国語を学んだ到達度」を測る試験で、中検HPの各級の認定基準は、4級が「一般大学の第二外国語における第一年度履修程度」、3級が「一般大学の第二外国語における第二年度履修程度」となっています。恐らく最初に挑戦する4級は1年生の勉強を終えたか、その一歩手前、それから3級は2年生の勉強を終えたあたりが一応の目安になります。

皆さんも経験があると思いますが、恥ずかし

がり屋の日本人は(黙って)読んだり、(黙って)書いたり、(黙って)聴いたりする勉強は得意ですが、声を出すことを極力避ける傾向があります。普通の筆記テストはそれでも得点出来てしまいますが、実はここに落とし穴がありますが、外国語学習の目的が、昔のように読解で知識を得るだけなら、これでも一向に構いませんが、いまは時代がコミュニケーション能力を盛んに求めています。ですから中検でもコミュニケーションのカナメである「発音」問題の配点が下がることはありません。気持ちを切り替えて、いっそのこと発音問題を得意分野にして、高得点を目指しませんか。

では、中検合格にはどの程度の単語数が必要でしょうか。中検HPを見ると、4級は「単語の意味、漢字のピンインへの表記がえ、ピンインの漢字への表記がえ、常用語500~1,000による中国語単文の日本語訳と日本語の中国語訳」、3級は「常用語1,000~2,000」とあります。ただ、哀しいかな、中検HPは具体的な単語を示していません。

こんな時には市販の問題集の単語表も一つの目安になります。例えばアルクの『キクタン』は4級560語、3級1008語を挙げていますが、これは最小限の必須単語です。愛大の1年生のテキストなら少なくとも400~500、多いと700~800の単語を習います。4級だと、余分なお金をかけずにテキストとCDできちんと復習すれば、少くみつもっても70%の得点を狙えます。ちなみに3級は必要な単語数は一気に増えて、1500~1600になります。

『キクタン』のキャッチコピー、「中国語学習者がなかなか覚えられないピンインも、『間違えやすい部分を付属の赤チェックシートで隠す→CDを聞きながら確認する』ことで、しっかりマスター」はかなり実用的な勉強法で、私の学生時代の勉強法もこれに近いものです。『キ

クタン』は私の先生や同学が書いているので当然と言えば当然ですね。私も発音攻略のアドバイスを求められると「テキストのCDを聴きながら、自分の口で実際に発音して、同時に手も動かして紙に漢字で単語を書く、その次はピンインで」と言う単純作業の繰り返しを提案します。遠回りのようですが、これまでの教え子を見ていると、これに勝る近道は無いようです。方法はこんな感じです。

4級の場合 授業のテキスト・付属CD、あるいは中検の問題集を一冊

- ① CD 音声を聴いて、発音しながら、紙やノートに漢字を書き取る
- ② CD 音声を聴いて、発音しながら、書き取った漢字の右隣にピンインを書き取る
- ③(①②を繰り返しながら) 正しく書けたものを消していく。
- ④(①②③を繰り返して) 全部できるまでやる。

必須単語を完全に準備したければ光生館の問題集もオススメです。かなり心配性なひとでも安心の4級1600語、3級2500語が揃っています。おトクと言えばおトクですね。

試験合格にはテクニックも必要ですから、受験前に必ず一回は過去問や問題集を解いて慣れておきましょう。単語帳や問題集には各級で覚えておくべき単語一覧が付いていますから、単語を機械的に覚えていくにも便利です。なお、自腹で一冊分投資すれば、投資回収の意欲も違ってきます。それから、愛大には便利な中国語 e-learning もあります。パソコンとネットが繋がる環境があればいつでもどこでも中国語検定の対策ができます。こんな説教くさい文章をここまで読んだあなたですから、中検合格の本気度はかなり高いはず。善は急げ、今すぐ対策をはじめましょう。